

みんなの

ちいき ふくし

CHI-KI FUKUSHI SOJA CITY COUNCIL OF SOCIAL WELFARE

社協だより
vol.45

3
2016

CONTENTS

ひきこもり支援	2
地域ニュース from 地区社協	4
権利擁護センター“しえん”	6
生活困窮支援センター	7
意思疎通支援	8
地域活動支援センター“ゆうゆう”	9
松寿会 / 介護者の会	10
災害ボランティア養成講座	12



写真：久代地区三代ふれあいまつり



社会福祉法人 総社市社会福祉協議会

「すべての住民が、自分の住み慣れた地域で、自分らしく、生き生きと、豊かに暮らせるふれあい、助け合い、支え合いのある住民主体の福祉コミュニティの実現」

ひきこもり支援は社会全体の課題です

1月7日(木)と9日(土)の2日間、「ひきこもりに関する研修会」人・地域・社会とつながる支援を目指して」を開催しました。

この研修会は、市内の民生委員・児童委員(161名)と福祉委員(573名)を対象にしたもので、2日間で総勢353名に参加いただきました。

参加いただいた民生委員・児童委員や福祉委員の皆さんに、「ひきこもり」の現状やその支援施策などを知っていただき、今後の「ひきこもり支援」について地域で考えていただくきっかけとなることを目指して開催しました。

研修会では、本年度設置した「ひきこ



岡山大大学院法務研究科
教授 西田 和弘 氏

もり支援等検討委員会」で協議している、総社市における「ひきこもり」の現状把握の方法や今後の支援方策などについての報告がありました。

前半は、「ひきこもり支援等検討委員会」委員長で岡山大大学院法務研究科副研究科長の西田 和弘 教授からの、基調講演『ひきこもりってどんなこと?』を行いました。「ひきこもりは、「自己責任」や「家族の責任」とは言い切れない」、「地域・社会の課題としてとらえ、一度失敗したら終わりの地域でなく、チャンスを与えられる地域にするべき」、「地域の力で支え合えるよう、皆さんのお力をお願いしたい」などと話されました。

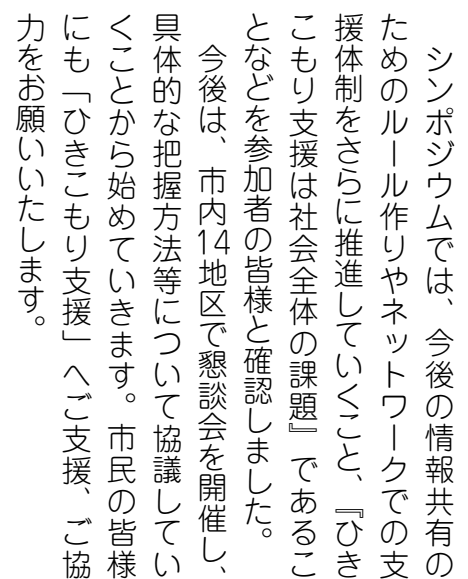
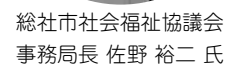
また、後半では『総社市のひきこもり支援の現状と今後求められること』をテ



総社市長 片岡 聡一 氏
(開会あいさつ)



ーマに、引き続き西田教授のコーディネートによりシンポジウムを行いました。岡山県備中保健所 唐井 幸子 総括副参事、おかやま若者サポートステーション 北殿 真弓 総括コーディネーター、高上 安志 日美地区民生委員・児童委員、総社市社会福祉協議会 佐野 裕二 事務局長にシンポジストとして登壇いただき、それぞれの役割や取り組み、今後の抱負などについて発表がありました。





常盤地区防災訓練を、日本赤十字
社岡山県支部のご協力をいただき、
中央公民館常盤分館で実施しまし
た。
日赤奉仕団常盤地区団長のもと、

常盤地区社協

防災訓練



常盤地区小学校地域づくり協議会、常
盤地区社会福祉協議会の140名が一体と
なり訓練しました。
◎ハイゼックスによる炊き出し訓練、
非常食のつくり方と試食（豚汁も含め
て）
◎AEDを使った心肺蘇生法、健康教
育（リラクゼーション）
◎県立大学の学生による、災害時の心
得等
常盤地区は、災害による被害の少な
い地区ではありますが、大規模災害が
発生してから慌てていては遅いので、
自主防災組織が出来ていない地区は、
まず組織をつくり、防災避難訓練も実
施できるようにしたいと思います。

from 地区社協

山田地区社協では、
認知症に関する理解を
深めるため小地域ケア
会議メンバーと一緒に
研修を重ねています。
平成27年3月に開催し
た認知症サポーター養
成講座に引き続き、11
月には西部地域包括支
援センターから講師を
招き、地元の「金曜サ
ロン」メンバーの参加
も含め、約40名の受講
者で『認知症声かけ模
擬訓練』を実施しまし
た。



山田地区社協

認知症声かけ 模擬訓練



清音地区社協

清音健康 福祉まつり

第11回清音健康福祉まつりを、平成27年10月18日(日)清音福祉センターにおいて開催しました。地区社協会長、来賓の方々の挨拶の後、我が地域の福祉活動の推進にご尽力いただいた功労者及び「福祉やボランティア」をテーマとして、清音小学校・認定こども園の児童たちの、福祉作



文・ポスターの応募から、優秀作文4点、優秀ポスター11点について表彰式を行いました。



会場は、18団体の出店による、美味しい食事やお菓子、バザーの物品等の販売が行われ、内外あちこちのブースは大勢の人たちの参加で、大変盛り上がりしました。一方、2階の大ホールでは、子どもたちの遊びコーナーを設け、お年寄りから子どもとその親、3世代の交流の場として非常に賑わいました。

午後からは、福祉のイベントとして、津軽三味線・蛇名流師範の蛇名宇摩さんをお招きし、津軽三味線演奏会を行いました。お二人の娘さんとの共演は、息ピッタリの演奏で、約150名の観客は大変感動し、癒しのひと時を過ごすことが出来ました。

地域

News

今後は、訓練の規模を拡大すること、訓練の回数を重ねることに加え、キャラバンメイの養成等を具体化し、認知症の人がひとりで安心して外出できるよう、地区全体で見守り、そして支え合う体制を整え「認知症の人にやさしい地域」を目指してまいります。



声かけ訓練では、決して他者の目で決めつけず「本人の思いはどうなのか」と本人の視点に立つて考えることが、的を得た効果的な支援であり、かつ暮らしやすい地域づくりであることを確認し、グループに分かれて、声かけ・保護・連絡の初期対応を体験しました。



平成28年1月14日(木)

総社市市民後見人定例研修会

を開催しました。

権利擁護センターでは、隔月で市民後見人の資質向上・情報交換を目的に「総社市市民後見人定例研修会」を開催しています。定例研修会は、専門知識や援助技術の研修のほか、市民後見人として活動する中で課題や不安等の解決策を専門職に相談できる場となっています。



今回は、大阪市立大学大学院教授の岩間伸之先生にお越しいただき、「市民後見人の意義と可能性」という演題でご講義いただきました。講義では、大阪市の取組みを交え、市民後見人の役割について理解を深めると共に、「本人らしい生活」を支えていくことの大切さを分かりやすく説明いただきました。

当日は、今年度の総社市市民後見人養成研修受講者にもご参加いただき、先生を囲んで有意義な研修会となりました。

権利擁護センターは、今後も市民後見人のフォローアップ体制の充実に努め、市民後見人皆さまのご活躍を支えていきたいと思ひます。



連載

第9回

「借金」



総社市権利擁護センター

“しえん”

弁護士

山内 弘美

今回は、借金の問題についてお話したいと思います。

収入が減ったとき、支出が多くなったとき、高額のを買うときなどに、金融機関から借入れをしたり、ローンを組むことがあります。当初の計画通りに返済できれば問題ありませんが、返済が長期間に及ぶと、予想外の出来事が発生し、返済が困難になることがあります。しかし、返済が滞ると、債権者から、手紙や電話、訪問による取り立てが始まり、さらに精神的に追い詰められることとなります。

月々の返済額を下げれば払えるのであれば、「任意整理」という方法が考えられます。これは、例えば月々3万円の返済を、月1万5千円に変更する合意を金融機関と交わすことです。借金が3年から5年以内に返済できる金額であれば、応じてもらえる可能性は高いです。

借金の額が多く、返済する見込みのない場合には、「破産」という方法が考えられます。破産が裁判所で認められた場合、よほどの事情がない限りは、税金以外の借金の返済を免れることができます。ただ、自分名義の不動産がある場合は手放さなければならないので、注意が必要です。

自分の弁済能力を超えてまでお金を借りないことが一番です。お金を借りた以上返すのは当然のことですが、どうしようもない事情が起こることもあります。借金のこと悩まれたら、弁護士等の専門家に相談することをお勧めします。

総社市生活困窮支援センター



総社市生活困窮支援センターでは、市内にお住まいで生活への不安、経済的に困りの方を対象に無料で相談を受け付けています（相談内容は、**秘密厳守**いたします）。

▼相談の流れ（相談内容に合わせ、次の支援を行います）

◎自立相談支援

相談員が自立生活に向けたプランを作成し、必要な支援（主に就労支援）を行います。

◎家計相談支援

家計の収支の見直し及び改善に向けた支援（家計簿の作成等）を行います。



あなたの声（不安や心配ごと）に寄り添い、

あなたに合った出口（問題解決）を一緒に探します！！



相談の多い内容

1. 経済的困窮について
2. 就職について
（仕事探し、仕事が長続きしないなど）
3. 家計管理について
4. 多重債務（借金問題）について
5. 社会的孤立について
（ニート・ひきこもりの相談など）



【相談事例】

母親とふたり暮らしで無職だった50代のAさん。母親の死後、民生委員・児童委員を通じて当センターに相談にいられました。

相談員は「生活を安定させるために、働きたい」というAさんの希望を大切に、Aさんの再就職に向け、支援を開始しました。

少し時間はかかりましたが、Aさんの頑張りもあって無事に再就職でき、生活が少しずつ安定してきました。



市民、企業、医療機関、学校法人、フードバンクのみなさまから食料品、生活用品など多数のご寄付をいただき、誠にありがとうございました。

寄付物品は、生活にお困りの方の支援に活用させていただいています。



▲寄付いただいた生活用品



【問い合わせ先】

総社市生活困窮支援センター

総社市中央1-1-3（総合福祉センター内）

TEL（0866）92-8374

FAX（0866）92-8284

相談受付／8：30～17：15（平日のみ）



要約筆記者入門講座

聞こえの不自由な方に、文字で伝えるボランティア

受講生募集

要約筆記とは、聞こえの不自由な方に、話の内容をその場で文字にして伝える筆記通訳のことです。

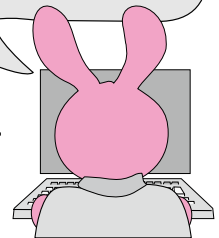
開催は日曜日

パソコン要約筆記中心
ですので、パソコンの勉強もします。
たくさんのご参加をお待ちしています。

開催日時	5/15 6/26 7/17 8/21 9/18 10/16 11/20 12/11 (計8回) 9:30~12:00
開催場所	総社市総合福祉センター
受講料	無料(ただし、テキスト代等実費は必要)

お申込み・お問い合わせ先 障害者差別解消法の施行により、
総社市社会福祉協議会 需要の高まる要約筆記ボランティアに
Tel 92-8555 参加してくださる方を募集します。

主催：社会福祉協議会ボランティアグループ 吉備うさぎ会



手話を学びませんか

少人数で手話を楽しく勉強しています。
手話に触れるところからはじめてみませんか。

*連続講座

全19回 (おおむね第1、3月曜日)

初回は5/16(月)

10:00~12:00

*場所

総社市総合福祉センター

*対象

総社市に在住、在勤在学の方

*参加費

無料(別途テキスト代はかかります。)



点訳ボランティアを やってみませんか

「総社点訳の会」では、
『自宅で』、『手の空いた時に』『マイペースに』
できる点訳ボランティアを行っています。

地道な作業ですが、目の不自由な方々に1冊でも多くの本をお届けするというボランティアは、やりがいがあります。

私たちと一緒に点訳ボランティアをやってみませんか。

今はパソコンを使っている点訳もできるようになり点字打ちもずいぶん楽になっています。

興味のある方は、是非ご連絡ください。

私たちのやっている主な活動…

- *「広報そうじゃ」(毎月)「社協だより」
「議会だより」(年4回)の点訳
- *一般図書を点訳して、総社市図書館に
寄贈

*活動日

毎月第4土曜日

13時半~16時

*場所

総合福祉センター2階
ボランティア室

【お問い合わせ先】 総社市社会福祉協議会 Tel 92-8555

障がいのある方の居場所

地域活動支援センター

ゆうゆう

(清音福祉センター内)

地域活動支援センターゆうゆうでは、障がいのある方が地域で安心して生活いただけるよう支援を行っています。気軽にくつろげる憩いの交流の場を用意するとともに、心の悩みや生活上のさまざまな問題についてご相談をお聞きしています。関心のある方は、お気軽に見学にお越しください。最近の主な活動を紹介します。

バーベキュー（砂川公園）



野外活動



オープンキッチン（毎水曜）



料理教室



ハンドベル



お月見団子作り



カラオケ



初詣（最上稲荷）



利用者募集中！！

開 館：午前9時～午後5時
月～金曜日、第2・4日曜日
(年末・祝日を除く)

利用料：無料
(個人の活動に係る費用については
実費をご負担いただきます)

その他、散歩、グラウンドゴルフ、卓球なども
行っております。

《お問い合わせ先》

地域活動支援センターゆうゆう

総社市清音軽部1135

(清音福祉センター内)

TEL 92-2566 FAX 92-8162



★ 日常生活自立支援事業 ★

認知症や障がいのある方などで、自分で判断することが難しい方々の市役所・銀行などの手続き、福祉サービスの契約や苦情解決のための支援、各種支払いなどを生活支援員等がお手伝いします。

★対象となる方★

- ①認知症や障がいがあるため、金銭管理が困難、または福祉サービスの利用契約などの判断に不安がある方
- ②日常生活自立支援事業を利用する意思のある方
- ③日常生活自立支援事業の契約内容を理解できる方・・・など

★利用料★

有料のサービスです。

支援の時間が最初の1時間1,100円、それ以降は30分毎に550円が加算されます。

書類の預かりサービスは別途1年間で5,000円（実費400円×12か月と事務手数料200円）が必要となります。

※場合によっては減免になることがあります。

★生活支援員★

福祉に理解がある方で、専門員（社協職員）と協働して利用者個々人の生活を応援する、地域のサポーターさんです。特に資格要件はありませんが、当事業の大切な役割を担っていただいております。

随時募集していますので、関心のある方は担当までご連絡ください。



詳しくは
社協まで！

入会のご案内



総社市松寿会 (ひとり暮らしの会)



65歳以上でひとり暮らしをされている方、一緒に活動してみませんか！主な行事は、7月、12月、2月の交流会。秋の日帰りバス旅行。料理教室などで、親睦を深めています。



総社介護者の会



現在、介護をされている方、介護経験がある方、介護や福祉について関心があり、サポートしていただける方、一緒に活動してみませんか！介護や福祉について情報交換をしたり、親睦を深めたりしませんか！



入会方法は、申込用紙に年会費 1,000 円を添えて、事務局までお申し込みください。

お問い合わせ
お申し込み先

総社市社会福祉協議会内

「総社市松寿会」
「総社介護者の会」

TEL 92-8555 (共通)

相談支援センター

指定特定
指定児童 相談事業 (相談支援専門員)



武部

正木

荒尾

渡邊

障がい福祉サービス
受給者証を必要とされる方の
支援計画をたてます。
(計画は自己負担なし)

TEL 0866-92-8565





※ご了承くださいいただいた方についてのみ、紙面上に寄付金額を掲載させていただいております。

種 別	金 額	寄 付 者		住 所
香典返し	10,000 円	假谷 清	亡母（律子）	福谷
	10,000 円	假谷 寛一	亡義父（義雄）	福谷
歳末たすけあい	86,183 円	総社市仏教会		上原（興禅寺）
	もち米	国府 浩富		総社
	50,000 円	角田 悦男		窪木
篤志品	米 60 kg	秋山 満志		門田
	米 540 kg	瑞泉院 高原妙泉		岡山市中区平井

下記については、金額の多寡にかかわらずご希望により寄付金額は掲載しておりません。

寄 付 者		住所	寄 付 者		住所	寄 付 者		住所
▽香典返し			川原 敏英	亡父（英朝）	総社二丁目	難波 孝子	亡父（登）	中原
渡邊 絹恵	亡夫（和一）	中尾	春名 操	亡長女（かおり）	清音上中島	関 元信	亡父（靖文）	中央四丁目
本行 豊	亡母（松野）	見延	小野 政美	亡義祖母（絹江）	下倉	多田 誠	亡父（哲一）	地頭片山
森 雅宏	亡祖母（清子）	東阿曾	風早 栄	亡姉（守安章佳）	西郡	林 敏子	亡夫（振三）	総社
平山 竜美	亡叔母（隅田好子）	高梁市津川町	岸本 王男	亡母（清子）	福井	渡辺 民子	亡母（田中公子）	日羽
高木 定子	亡夫（保明）	真壁	劔持 晋一	亡母（安子）	西郡	佐野 昇	亡母（榮）	井尻野
森岡 健太郎	亡父（秀人）	総社三丁目	加藤 政男	亡母（玉子）	総社二丁目	秋山 朋子	亡夫（幸弘）	久代
若林 恵子	亡夫（文也）	清音三因	小倉 昭博	亡父（貞義）	門田	本行 義明	亡父（重誠）	見延
藤井 達士	亡母（和子）	清音軽部	平田 雅之	亡叔母（千恵子）	小寺	佐野 弘	亡妻（共子）	井尻野
内田 欣吾	亡父（博）	福井	池上 忠久	亡父（展生）	秦	野崎 保	亡母（光子）	新本
切山 直吉	亡母（文子）	美袋	岡崎 勝彦	亡母（静枝）	泉	田辺 修也	亡父（木村健次郎）	久米
守安 誠	亡父（昇）	上林	高田 孝幸	亡祖母（いわ）	西阿曾	足立 則夫	亡長女（和歌子）	中原
出原 正昭	亡父（一郎）	井尻野	小原 信夫	亡父（晃）	秦	▽篤志寄付 足立 則夫		（捜索のお礼） 中原
渡辺 恵美子	亡母（坪井和子）	神奈川県海老名市	橋本 徳典	亡父（幸雄）	秦			
岡本 正志	亡義母（横田愛子）	久代	中村 隆	亡父（賢二）	中原	▽歳末たすけあい 匿名 米		
中山 和子	亡夫（肇）	原	高山 三和子	亡夫（統一）	井手			
岡本 明子	亡伯父（黒江 操）	井尻野	今井 満寿美	亡夫（久志）	中央一丁目			
平 美穂	亡夫（幸治）	久米	糸島 靖之助	亡姉（節恵）	秦			

（平成 27 年 10 月 21 日 ～ 平成 28 年 1 月 20 日まで 敬称略）

事務局長

ケースワークの
スキルアップを！

先日、大阪市立大学大学院教授の岩間伸之先生をお迎えして職員研修を行った。研修内容は、生活困窮支援センターが担当しているケースの事例検討。まず、担当者が対象者の生活状況や支援経過を報告した。その後、岩間先生から対象者に関する様々な情報についてのたくさんの質問があった。その質問によって対象者の特性やこだわりなどの人物像が浮かび上がるものになった。そして、対象者の課題と背景要因を明確にし、まとめでは岩間先生にスーパervayズをいただき支援の方向性を職員全員で共有するものであった。

我々社会福祉協議会の職員は、地域福祉を推進する職員だが、生活困窮者自立支援事業や日常生活自立支援事業や貸付などで様々なケースに出会い支援を行っている。ところが、この研修を受けて、目の課題に目が奪われて、対象者の核心に迫る支援ができていたの不安になった。やはり、事例検討はスーパervayズを受けながら、多分野が協働し、繰り返し行うことの重要性を再認識した。このような研修を繰り返し深め、我々社協職員のスキルアップに努めたい。

Topics

11 みんなのちいきふくし

災害ボランティア養成講座を実施しました！

平成27年度 災害ボランティア養成講座を2回にわたり実施しました。

昨年度に引き続き、被災地支援や災害ボランティアのコーディネーターとして全国にご活躍されている日野ボランティアネットワークの山下弘彦氏を講師にお迎えし、34名が受講されました。そのうち21名は岡山県立大の学生で、様々な立場から災害に対する理解を深め、みんなで考えていく機会となりました。

第1回目は「災害ボランティアことはじめ ～被災地に求められるもの～」というテーマでご講演いただいた後、「被災状況などの情報がスムーズに伝わるのか」、「一人暮らしの高齢者、障がい者などの孤立を防ぐにはどうしたらよいか」、「自主防災組織などと連携し、地域住民の関心を高めないといけない」といった課題について、グループで討議しました。



災害に負けない



第2回目は、「災害ボランティアセンター設置演習」を実施しました。これは実際に総社市で災害が発生したことを想定し、被災者役・ボランティア役・災害ボランティアセンターの運営スタッフ役に分かれ、被災者・ボランティアの受付からニーズの調整まで、一連の流れを模擬的に学習しました。

「家の中に土砂が入ってきて…」「近所のお一人暮らしの高齢者が心配で…」などと、次々に寄せられるニーズ（依頼）に対し、スタッフ役は何とかご要望にお応えしようと奮闘しました。

地域づくり

災害ボランティアの養成は今年で4年目。年々少しずつ形を変えながら、より内容を濃くし、参加者の熱い気持ちもますます高まってきているように感じます。

災害が起きた時にどのような支援ができるのか、災害が起きる前に取り組むべきことは何なのか、今後の活動につながっていくと期待しています。本会では昨年10月に日本赤十字社 岡山県支部より、「炊き出し用移動かまど」を寄贈いただきました。災害時の救援活動にはもちろん、地域の防災訓練などに活用させていただいています。

これからも引き続き、地域の皆様と共に、災害に立ち向かう地域福祉の在り方を考えていきたいと思います。

